

2025 年 12 月期 1Q 決算補足説明資料

Supplemental Information Financial Results For FY 2025 1Q

2025年4月25日

四国化成ホールディングス株式会社
(東証プライム4099)

1. 連結業績の概要

Consolidated Financial Results

有機化成品や建材の販売が減少したが、
ファインケミカルの販売増により、減収増益となった。

(百万円)
Million yen

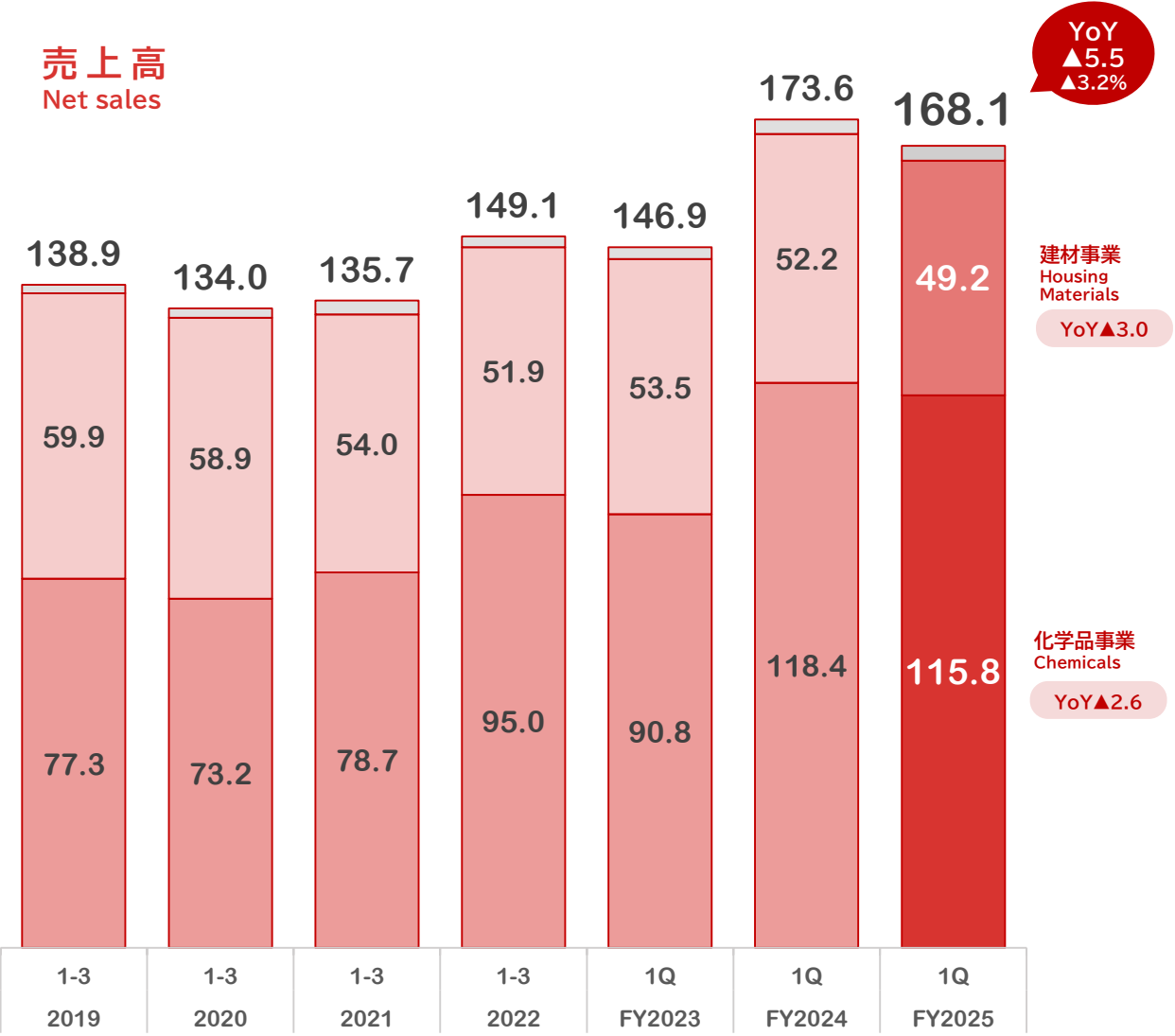
	FY2024 1Q	FY2025 1Q	増減 Change ／ 増減率 Rate	備考 Remarks
売上高 Net Sales	17,358	16,809	▲548 ▲3.2%	・化学品事業は、有機化成品の北米向け販売が前期好調の反動減で減収 ・建材事業は、戸建市場の低迷により減収
営業利益 Operating profit	2,405	3,037	+631 +26.3%	・建材事業は減益となったものの、ファインケミカルの販売増により増益
経常利益 Ordinary profit	2,903	2,811	▲92 ▲3.2%	・為替差損益 ▲353 (YoY▲696) ・受取利息 98 (YoY▲7)
親会社株主に帰属する 当期純利益 Profit attributable to owners of parent	1,803	1,925	+122 +6.8%	・投資有価証券売却損益 146 (YoY+146) ・固定資産除却損 ▲37 (YoY▲34)
為替レート (PL換算用) Exchange rate	1USD 148円 1EUR 161円 1RMB 20.4円	1USD 153円 1EUR 159円 1RMB 21.1円	売上高+2.0億円 営業利益+1.5億円	・前年比増減に含まれるPL円換算時の影響額(化・建計) 外貨建取引における換算レート変動の影響のみを抽出しております。円貨建取引においても実質的に為替レートの変動に影響を受ける取引は多くありますが、含まれておりません。
ROE	8.8%	9.2%	+0.4%	※四半期のROEは年率換算を行い、1Qではリターン部分を4倍で計算しています。

売上高と営業利益の推移(通期累計)

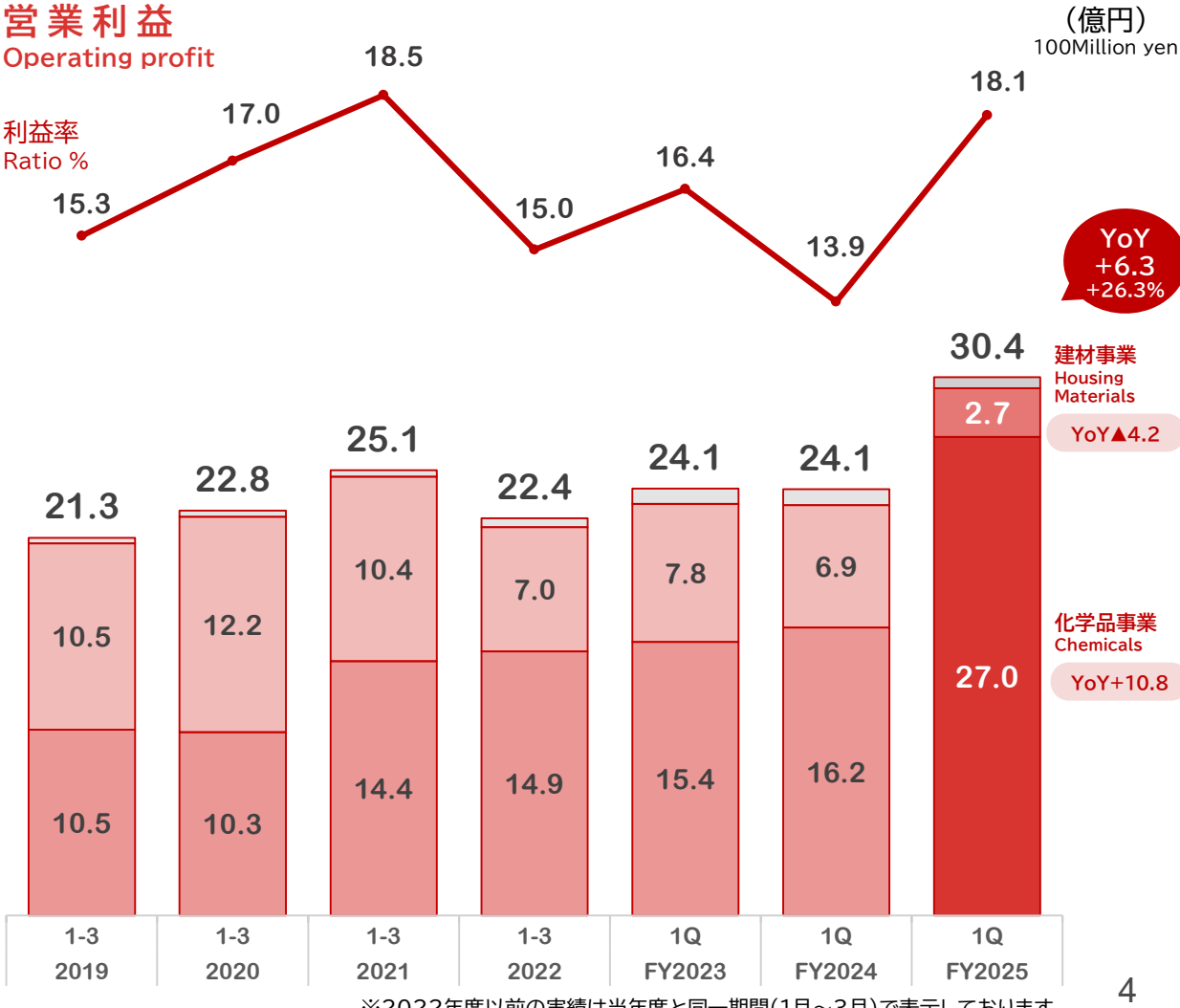
Trends in Net sales and Operating profit (YTD)

売上高は化学品(▲2.6)、建材(▲3.0)ともに減収で、全社で減収(計▲5.5)
 営業利益は化学品が増益(+10.8)、建材が減益(▲4.2)だが、全社で増益(計+6.3)

売上高
Net sales



営業利益
Operating profit



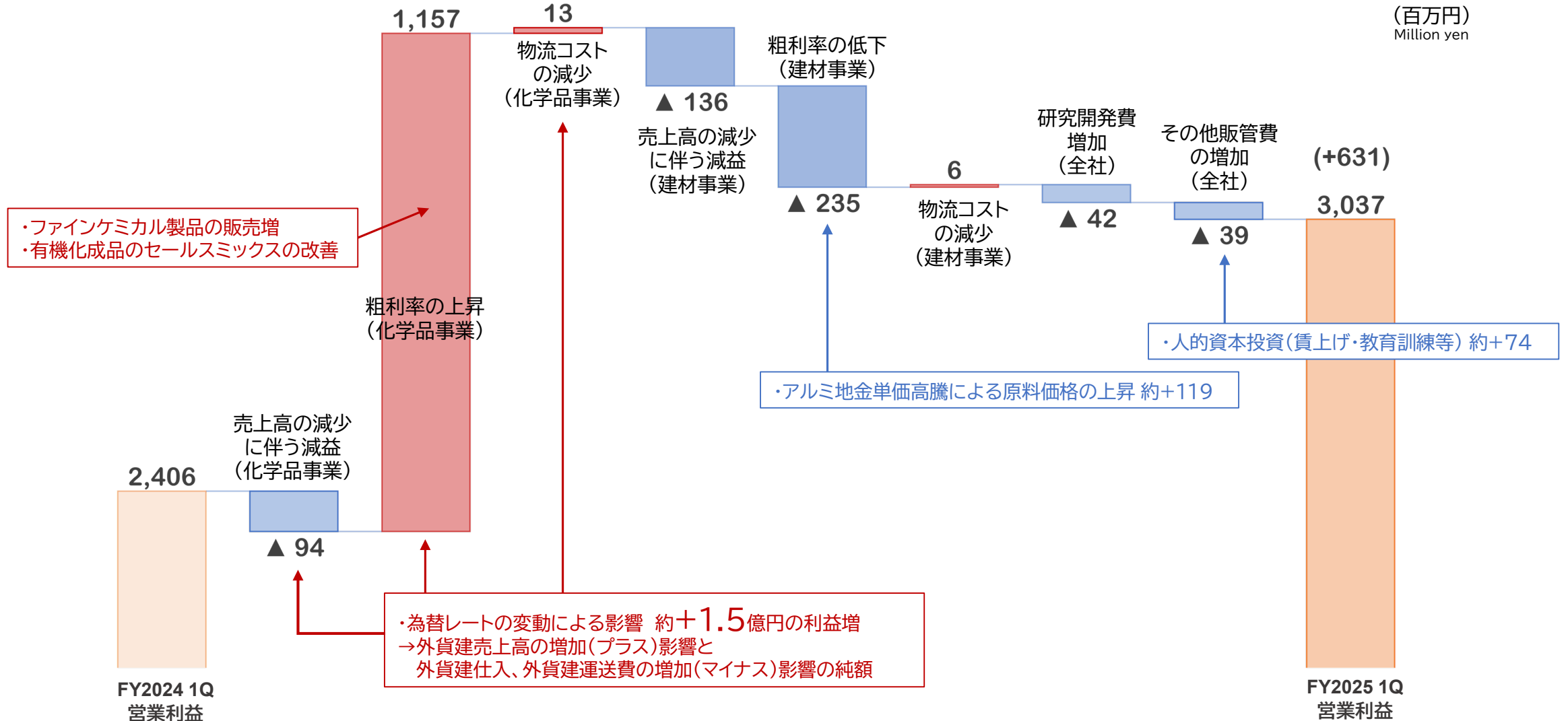
※2022年度以前の実績は当年度と同一期間(1月～3月)で表示しております。

セグメント		2025年12月期 1Q事業概況	
無機化成品			不溶性硫黄は、海外顧客への積極的な営業活動により販売数量が増加し、売上高はYoY、QoQともに増収。
有機化成品			北米向けの販売が前期好調の反動減で、YoY、QoQともに減収。
ファインケミカル	機能材料		IMZ類の販売数量は前期並みも、単価上昇によりYoYで増収。 樹脂改質剤は前期並み。 半導体プロセス材料は、試作需要及び量産需要の増加により増収。
	電子化学材料		タフエースは、新規顧客獲得により、YoY、QoQともに増収。 GliCAPは、既存顧客向け需要増、新規顧客の立ち上がりにより増収。
建材			景観EXは年度末の需要期にあたるため、建材トータルでQoQでは増収も、住宅着工戸数の低迷に加え、現場での工期遅延も影響しYoYでは減収。
全社			

営業利益の変動要因分析(通期累計)

YoY Changes in Operating profit

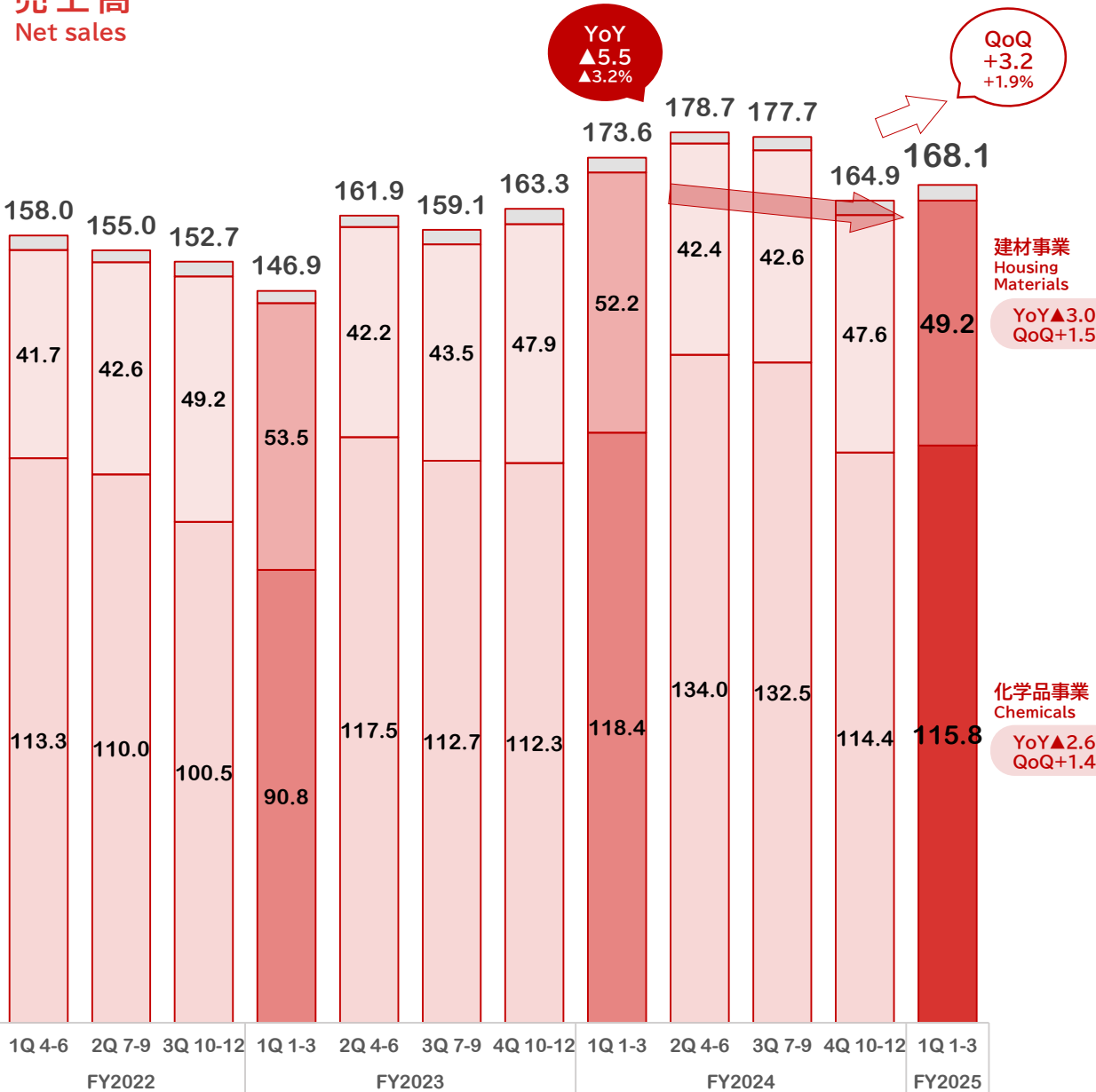
建材の販売低調による利益減を
収益性の高いファインケミカル製品の販売増がカバーし、増益



売上高と営業利益の推移(四半期対比)

Trends in Net sales and Operating profit (QTD)

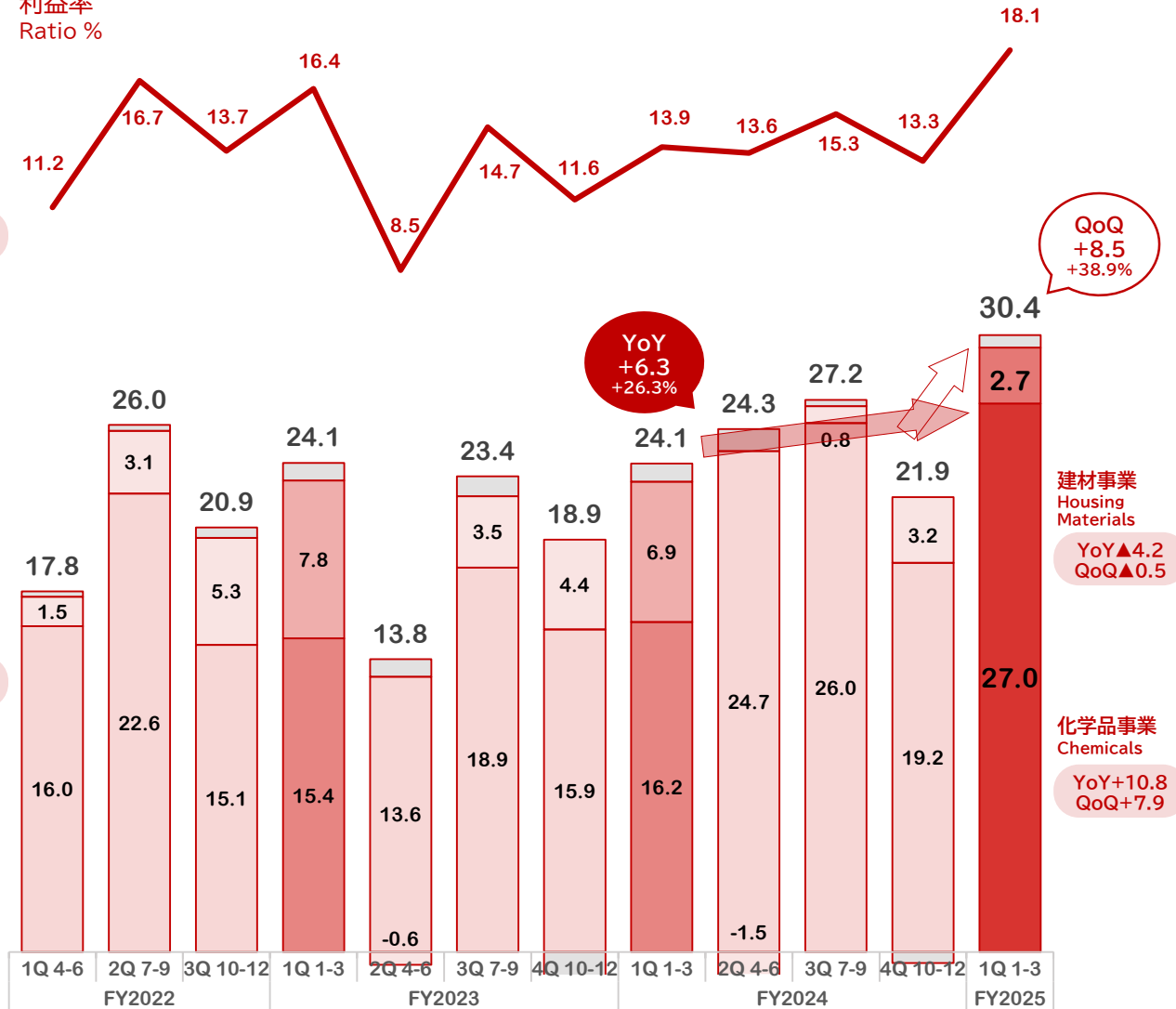
売上高 Net sales



営業利益 Operating profit

(億円)
100 Million yen

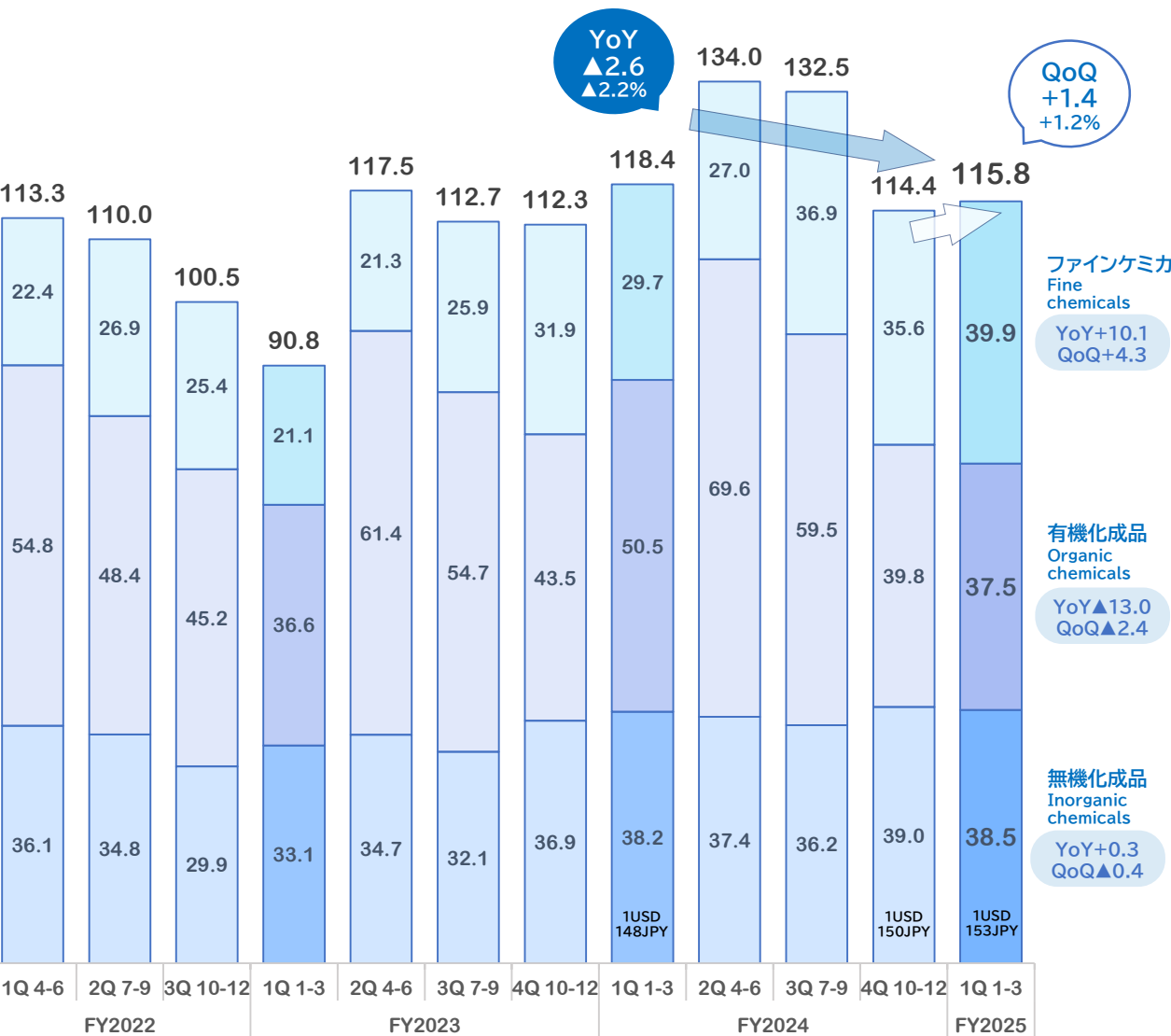
利益率
Ratio %



セグメント別の概況 化学品事業（四半期対比）

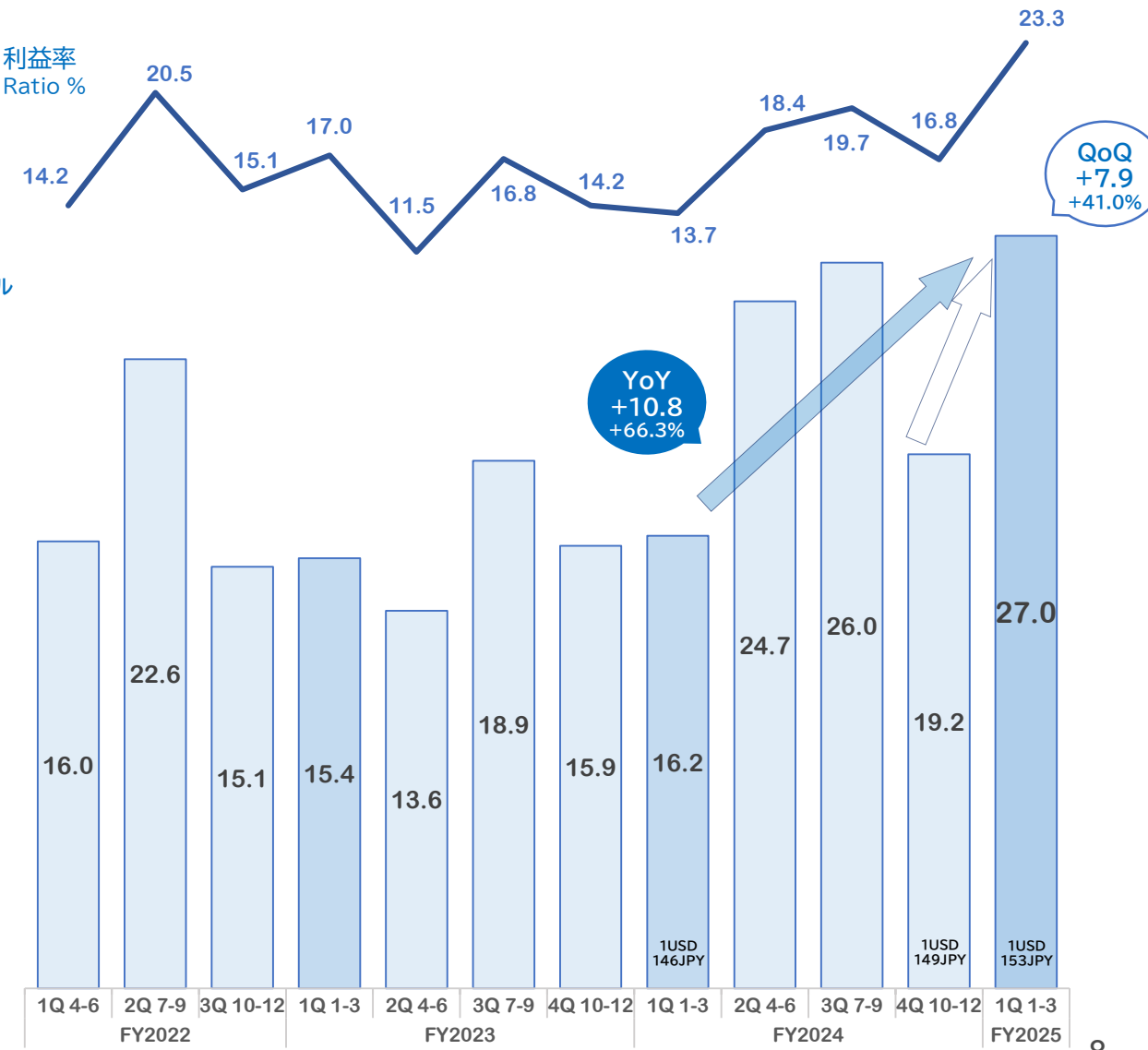
Operating results by segment : Chemicals (QTD)

売上高 Net sales



営業利益 Operating profit

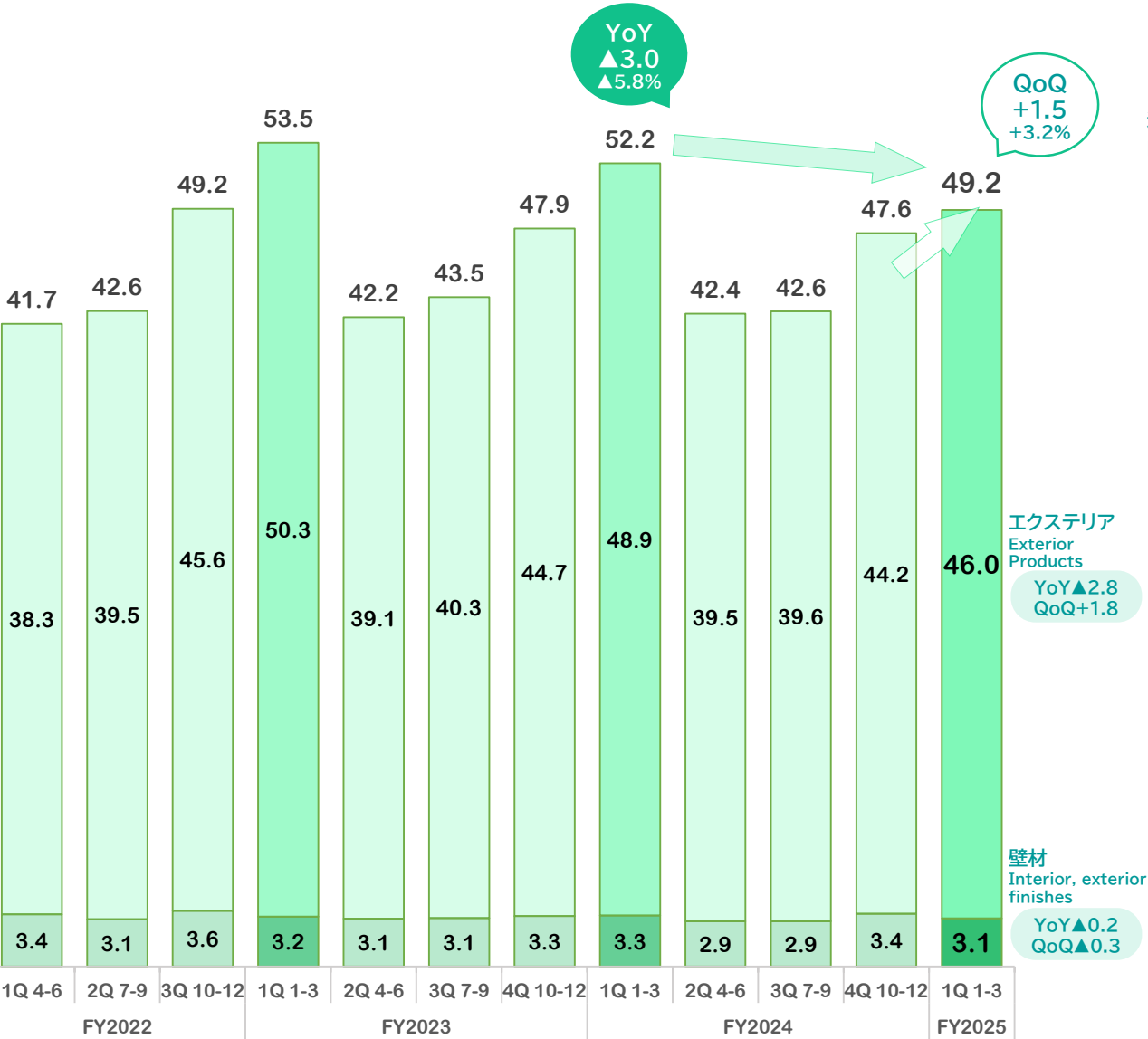
(億円)
100Million yen



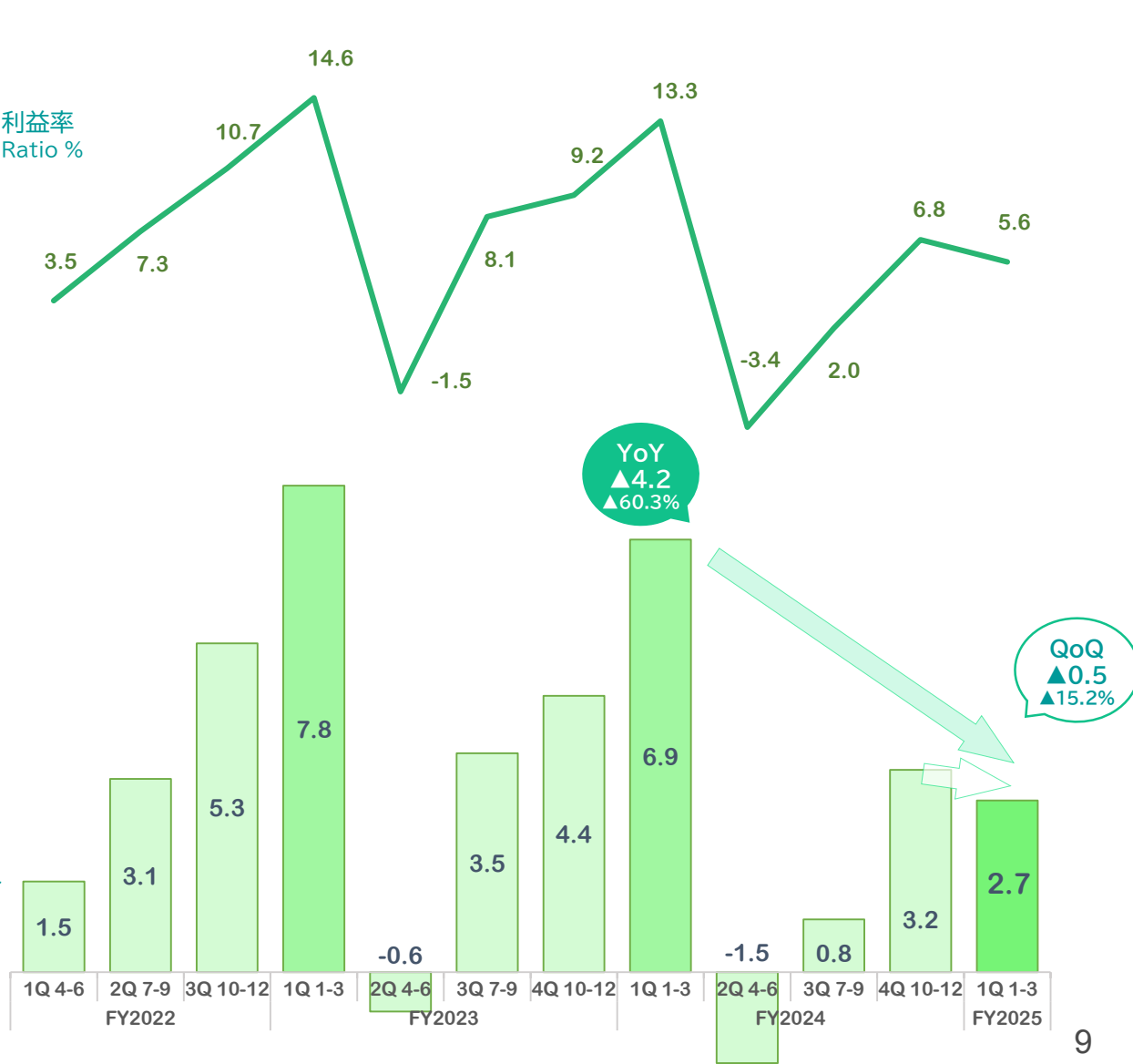
セグメント別の概況 建材事業（四半期対比）

Operating results by segment : Housing Materials (QTD)

売上高
Net sales



営業利益
Operating profit

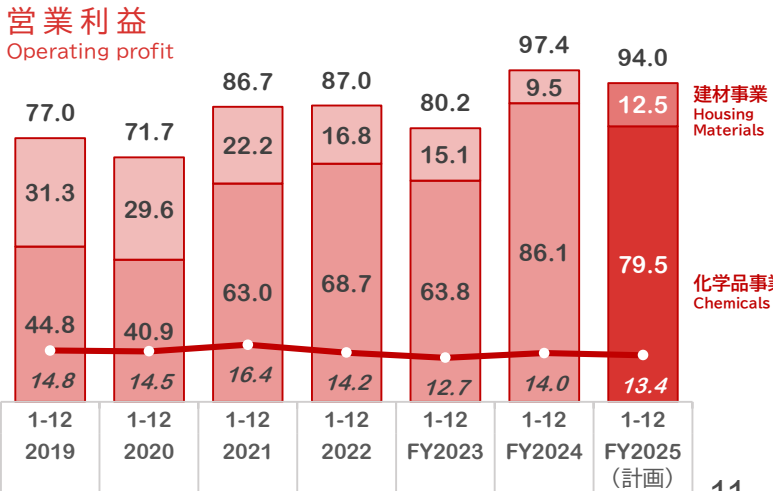
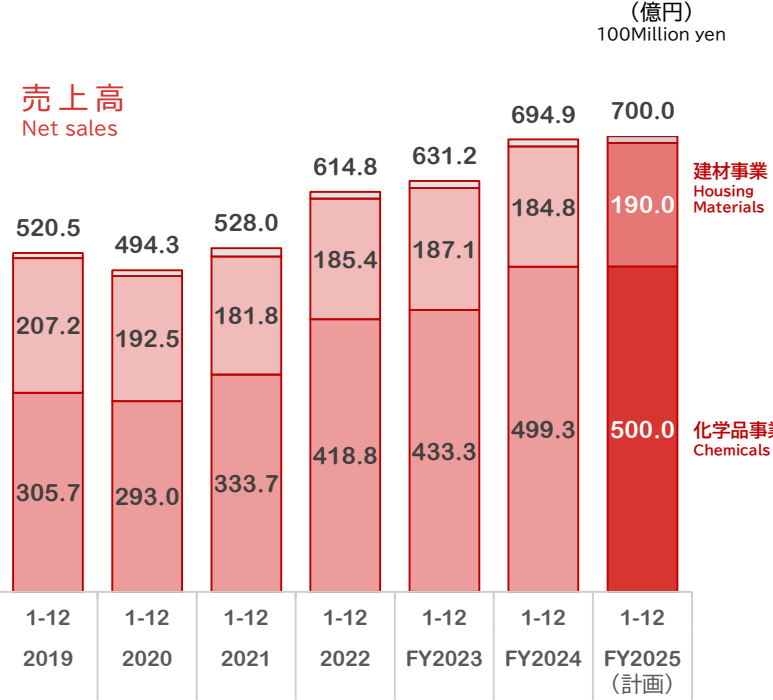


2. 2025年12月期の通期見通し

**Financial Forecast
for the Fiscal Year Ending 2025**

売上高は、計画を下回るセグメントがあったものの、ファインケミカルの好調によって計画並み。
 各段階利益は、ファインケミカルの販売伸長が貢献し想定を上回る進捗。
 米国の通商政策が及ぼす影響は、対象外リストの精査や、米国内在庫の販売時期を確認中。

	FY2025 業績予想	FY2025 1Q	計画対比 進捗率	備考 Remark
売上高 Net sales	70,000 (化学品)50,000 (建材)19,000	16,809 (化学品)11,582 (建材)4,915	24% (化学品)23% (建材)26%	・化学品事業は、有機化成品の北米向け販売が前期の反動減となったが、ファインケミカルの売上が伸長したことで、全体では計画並みの進捗であった。 ・建材事業は、戸建住宅着工戸数の低迷や働き方改革に伴う工期遅延等により、計画を下回る進捗であった。
営業利益 Operating profit	9,400 (化学品)7,950 (建材)1,250	3,037 (化学品)2,701 (建材)274	32% (化学品)34% (建材)22%	・化学品事業は、ファインケミカルの販売伸長によって計画を上回る進捗となった。 ・建材事業はやや低調な滑り出しとなったが、4月以降の価格改定で収益性が改善し、増益を見込む。
経常利益 Ordinary profit	9,800	2,811	29%	・為替差損▲353の発生により、増益幅は縮小も計画を上回る進捗。
親会社株主に帰属する 当期純利益 Profit attributable to owners of parent	6,500	1,925	30%	
為替レート (PL換算用) Exchange rate	1USD 150円 1EUR 160円 1RMB 21.0円	1USD 153円 1EUR 159円 1RMB 21.1円		・想定レート比では円安で推移し、1Qで計画比売上高+1.5億円、営業利益+1.1億円程度のプラス影響となった。



※前年比較及びグラフの表示は、2022年度以前の実績を当年度と同一期間(1月～12月)に調整しております。

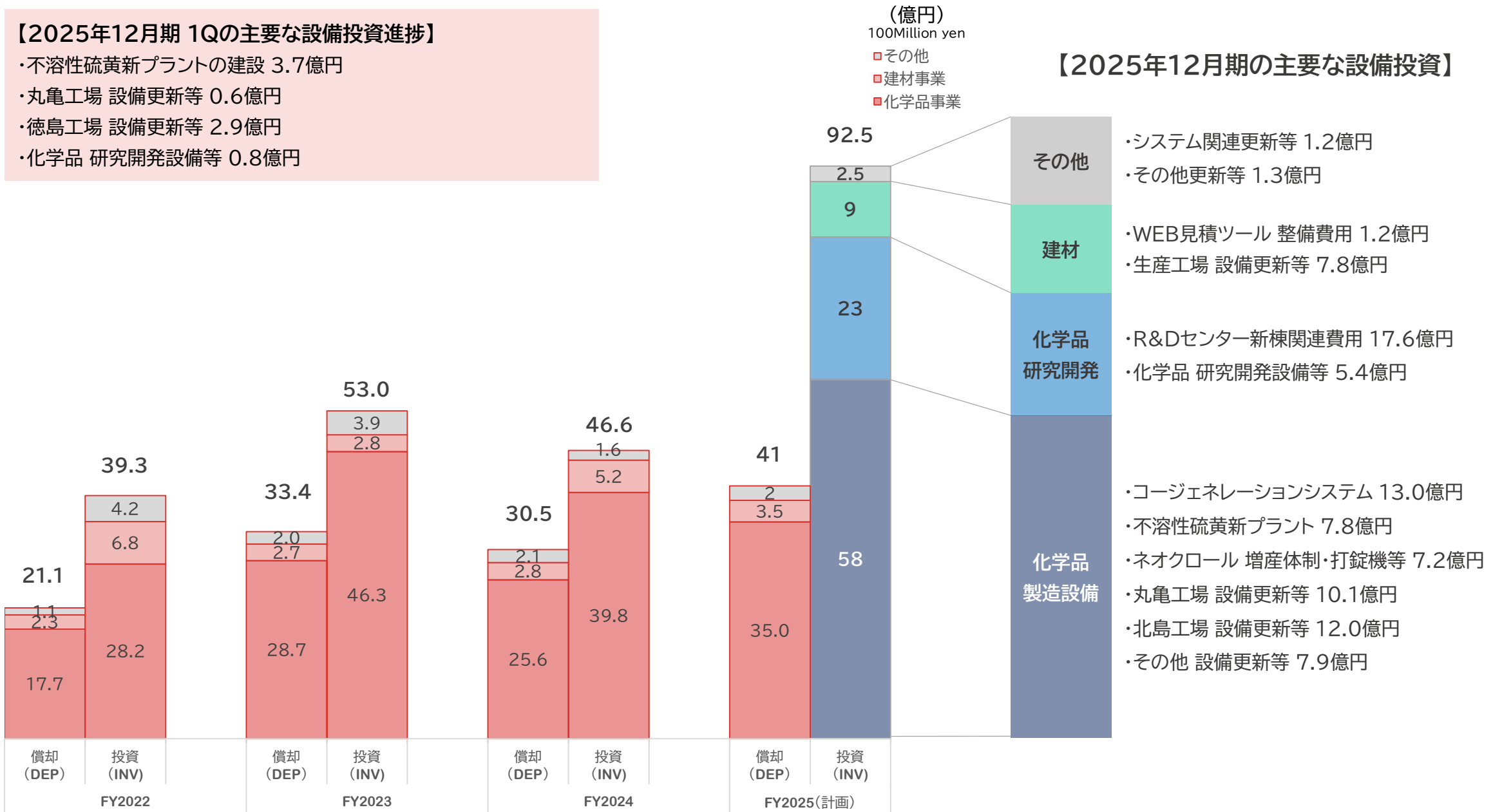
設備投資及び減価償却費について

Capital investment and Depreciation

【2025年12月期 1Qの主要な設備投資進捗】

- ・不溶性硫黄新プラントの建設 3.7億円
- ・丸亀工場 設備更新等 0.6億円
- ・徳島工場 設備更新等 2.9億円
- ・化学品 研究開発設備等 0.8億円

【2025年12月期の主要な設備投資】



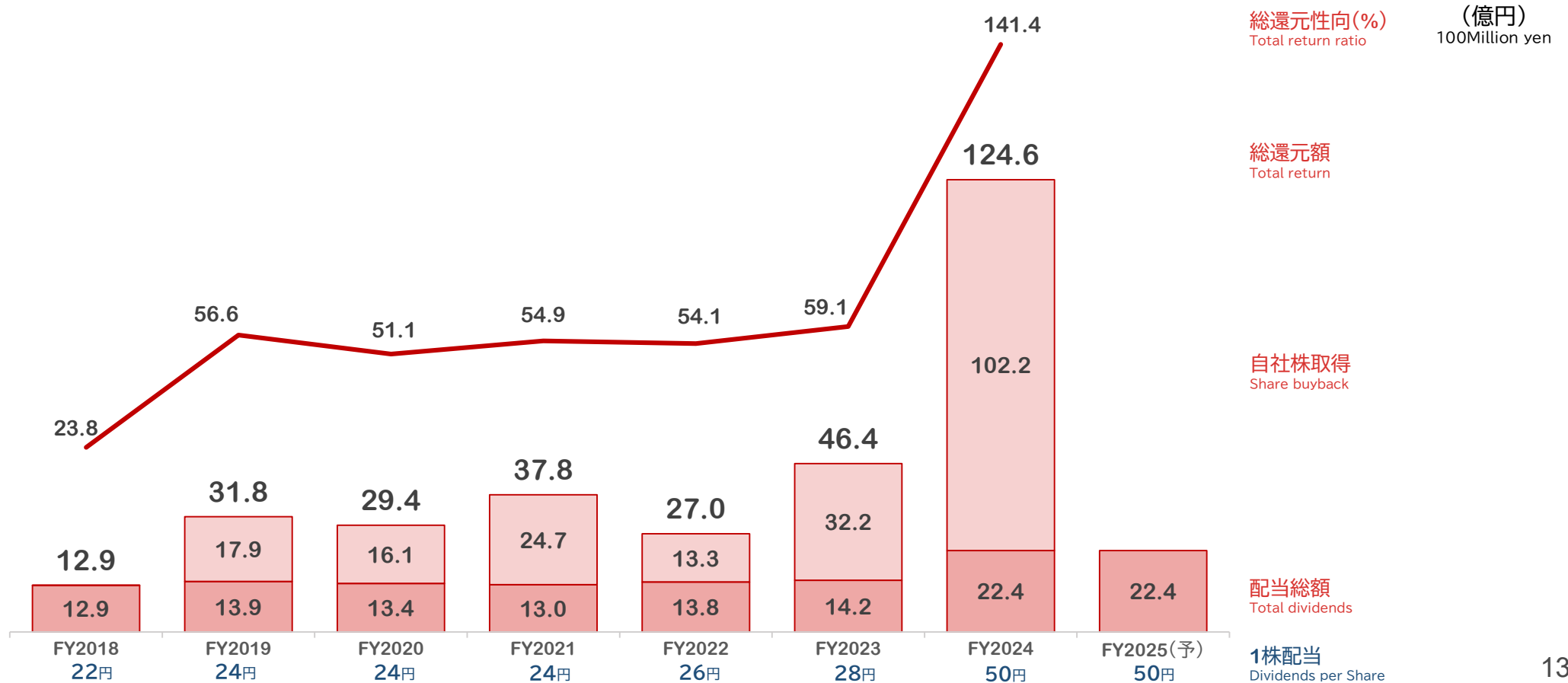
【株主還元方針】

- 配当性向 **30%**
- 総還元性向 **50%**
- DOE(連結株主資本配当率) **3%**

長期ビジョン「Challenge 1000」の期間中において、連結業績を基準として上記還元方針を目指す。

【2025年12月期の株主還元政策(予想)】

- ・1株当たり50円(中間25円・期末25円)を維持する計画です。
- ・株主還元方針を前提に機動的に自己株取得を行い、余剰資本や政策保有株式の圧縮を進め、株式価値の向上に努めてまいります。



3. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

Action to Implement Management
that is Conscious of Cost of Capital
and Stock Price

事業ROICは化学品、建材ともに上昇した。
 全社ROICも借入金の返済により上昇。
 ROEは前期有価証券売却益の剥落により下落したが、
 1Q対比では前期から0.4ポイント上昇。

連結貸借対照表(2025/3/31現在概算値)

【金融資産】
 (現状と今後の方針)
 借入金の返済により、金融資産残高は前期末比80億円減少した。資金需要に対して有利子負債を活用する一方で、余剰部分は返済を通して積極的に縮減する。

	FY2024末	FY2025 1Q
	729億円	649億円
	(期初比▲80.2億円)	
(内訳)		
現預金	337億円	285億円
有価証券	146億円	136億円
投資有価証券	245億円	227億円

【事業用諸資産】
 営業債権
 棚卸資産
 有形/無形固定資産

	FY2024末	FY2025 1Q
【化学品】	439億円	439億円
	(期初比+0億円)	
【建材】	149億円	149億円
	(期初比+0億円)	

【余剰資本】
 (現状)
 現状の預金保持方針は年商の1/4を目安としている。金融資産649億円から有利子負債232億円、リスクバッファ約200億円を差し引いた約200億円が余剰資本と認識。

(今後の方針)
 長期経営計画の最終ステージは、2030年以降の飛躍に向けた体制づくりの時期とし、成長投資に加え、人的資本・環境整備への投資を優先的に実施する。政策保有株の削減も検討し、進捗に応じて株主還元も機動的に実施する。

【事業投下資本】
 (対比すべき利益指標)
 事業別税引き後営業利益 → 事業別ROIC

	FY2024末	FY2025 1Q
【化学品】	314億円	332億円
	(期初比+18億円)	
事業別ROIC	19.6%	23.4%
【建材】	91億円	95億円
	(期初比+4億円)	
事業別ROIC	7.7%	8.2%

【事業用諸負債】
 営業債務
 労働負債・引当金

【全社グループ投下資本】
 (対比すべき利益指標)
 税引後(営業利益+金融収益)
 →全社ROIC

(現状)
 現状のWACCは4.5~5.5%と認識。全社ROICはWACCを上回る水準にあるが、引き続きROIC-WACCスプレッド拡大に向けた施策を継続する。

	FY2024末	FY2025 1Q
全社	1,147億円	1,086億円
	(期初比▲60億円)	
ROIC	6.6%	8.0%

【将来獲得収益(FCF)】

(株主還元)
 当期純利益の50%を目標として、機動的に実施

(内部留保)
 リスク資金として成長投資と人的資本投資を最優先

【簿価純資産】
 (対比すべき利益指標)
 当期純利益 → ROE

(ROE目標)
 最低限株主資本コストを上回るためにも短期的には8%をハードルレートとし、資本の圧縮により安定的に10%超を目指す。

	FY2024末	FY2025 1Q
	833億円	845億円
	(期初比+12億円)	
ROE	10.4%	9.2%

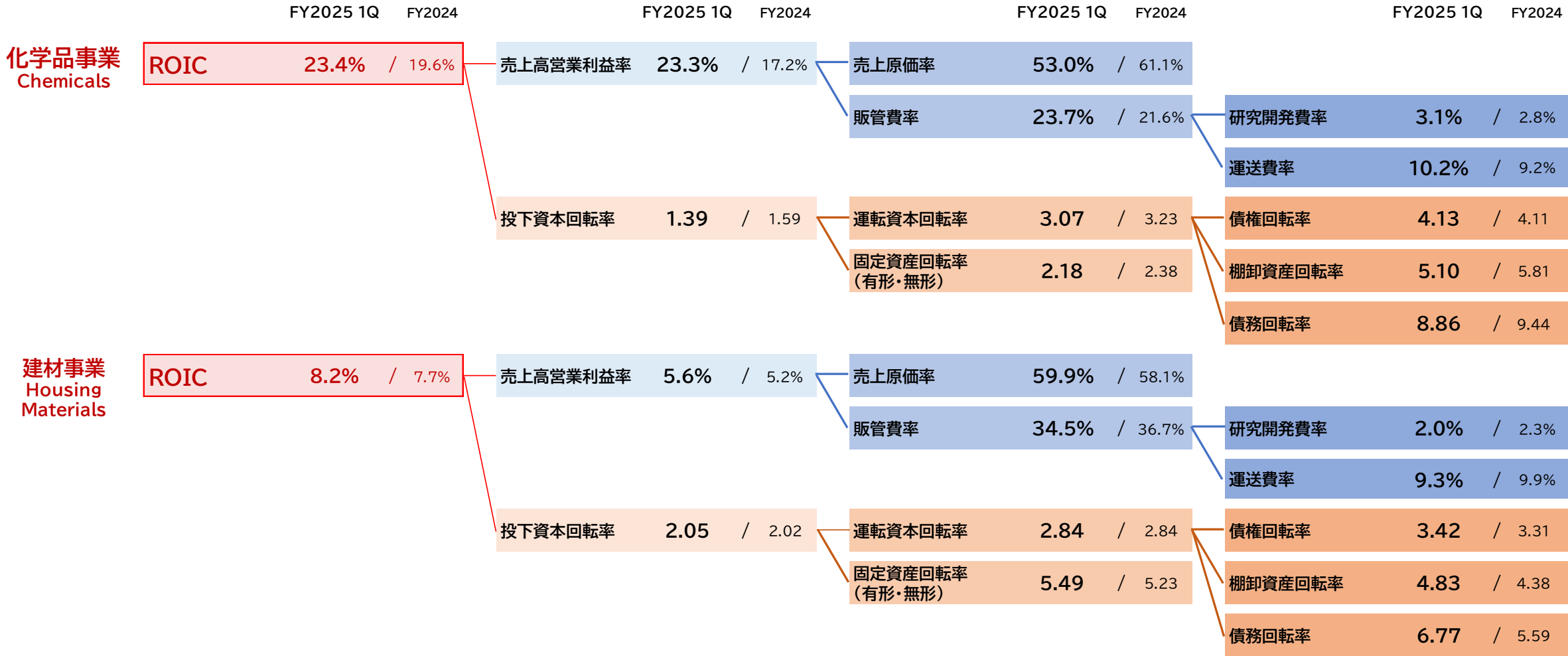
【有利子負債】
 (今後の方針)
 2029年目標の達成及び2030年以降の持続的成長に向けた積極投資に有利子負債を活用する。現在の格付(A-, R&I)の維持を前提に、足元の財務状況を考慮しながら、最適資本構成を追求する。

	FY2024末	FY2025 1Q
	305億円	232億円
	(期初比▲73億円)	

【将来純資産】
 攻めの成長戦略と資本効率性を両立させるバランスシートマネジメントにより、常時株主資本コストを上回るROE水準を維持する。

※四半期のROIC・ROEは年率換算を行い、1Qではリターン部分を4倍で計算しています。

ニッチな事業領域や研究開発力に起因する高付加価値＝低原価率・高ROSと、生産設備の投資負担が小さいことから高い資本回転率を維持している。



※四半期のROICは年率換算を行い、1Qではリターン部分を4倍で計算しています。

免責事項

Disclaimer

- ◆本資料は、株主・投資家などの皆さまに当社の経営方針、計画、財務状況などの情報をご理解いただくことを目的としており、当社の株式の購入、売却など、投資を勧誘するものではありません。
- ◆本資料に掲載されている情報は細心の注意を払って掲載しておりますが、掲載された情報の内容が正確であるか、更新時期が適切かどうかなどについて一切保証するものではありません。また、掲載された情報またはその誤りなど、本資料に関連して生じた損害または障害などに関しては、その理由の如何に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。
- ◆本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績などに関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいており、リスクや不確定な要因を含んでいます。実際の業績は、さまざまな要因により、これら業績などに関する見通しとは大きく異なることがあります。
- ◆以上のことをご理解いただき、投資に関する決定をされる場合には、当社が発行する有価証券報告書などの資料をご覧ください。などとして、ご自身の判断で行われるようお願い致します。

お問い合わせ先
四国化成ホールディングス株式会社 経営企画室
TEL:0877-21-4119
<https://www.shikoku.co.jp>